

衣服の研究現場より

TAKE FREE

公类財団注 L 宣郑昭飾立ル研究財団 (KCI) 広想彗

お 知 5 t p24

p22

欠損部の神修室 東かがわれ 製 第 15 市 手 補

p14

p20

充

服 15

入 人 品 収蔵品 海 か 5 聞 え る 音 楽

p4

本誌について

『服をめぐる』は、京都服飾文化研究財団(KCI)が収蔵する膨大な西洋服飾コレクションを手がかりに、服飾の歴 史や文化を分かりやすくお伝えする小冊子です。文学者やアーティストからの視点、日本の伝統産業との関わり、 研究現場からのレポートなど、さまざまな観点から服飾の世界にアプローチします。服をめぐる旅が今、ここか ら始まります。

京都服飾文化研究財団 (KCI)とは

京都服飾文化研究財団 (The Kyoto Costume Institute, 略称 KCI) は、西洋の服飾やそれにかかわる文献資料を収集・保存し、調査・研 究する機関として、1978年に株式会社ワコールの出捐によって設立さ れました。現在、18世紀から現代までの衣装など服飾資料を約13,000 点、文献資料を約20,000点収蔵。それらを多角的に調査・研究し、そ の結果を国内外での展覧会(「モードのジャポニスム」展、「身体の夢」 展、「FUTURE BEAUTY:日本ファッションの30年」展など)や、研究 誌(『DRESSTUDY』、『Fashion Talks...』)の発行を通じて公開しています。 Website https://www.kci.or.jp/



「Kimono Refashioned」展 (2019年 シンシナティ美 術館) ©Cincinnati Art Museum. Photography by Leigh Vukov



詩人

X

K

C

Ι

収蔵品

1780年頃 フランス製 京都服飾文化研究財団所蔵 小暮徹撮影

ピンクと白の絹タフタ生地に花づな 模様を手描きした華麗なドレス。パ ニエ(下着)によって腰が横に大き く張り出したシルエットが特徴で、 ロープ、ストマッカー(胸当て部 分)、ペティコートの三部で構成さ れる。この形式はローブ・ア・ラ・ フランセーズと呼ばれ、当時のフラ ンスで最も格式の高い衣装形式の ひとつだった。

フランス革命の足音が近づく1780 年頃、王侯貴族の文化は爛熟期を迎え、極限の人工美を開花させていた。 過剰なまでの装いはドレスをはじめ 化粧や髪形にもおよび、本品にみら れるような風変りな造形物を頭上に 飾ることが流行した。巨大化した危 ういバランスの装飾はやがて訪れる 貴族社会の終焉を予感させる。



今回のゲストは詩人の菅原敏さんです。 著名人が各々の目を通し、KCIの収蔵品を語る「一人一品」。

ロッパ、 訳世界恋愛詩集』(2017年 勤講師など、多方面で活躍されています。近著に『かのひと 「QUIET POETRY」ナビゲーター、 分野とのコラボレーションも積極的に行っておられます。 されています。その他、 執筆活動を軸に、 より詩集『裸でベランダ/ウサギと女たち』を発表し、デビュー 菅原さんは20 雑誌『BRUTUS』他での連載、 美術家とのインスタレーションなど、音楽やアー ロシアでの海外公演など、さまざまな方法で詩を表現 ラジオやテレビでの朗読や、 11年、 Superflyや合唱曲への歌詞提 アメリカの出版社PRE/ 東京新聞出版局)。 東京藝術大学非常 アメリカ、 W A ・トなど異 O S T V E さら 3

いったいどのような作品が生れたのでしょうか。らイメージをふくらませた詩をお寄せいただきました。菅原さんには、KCI収蔵品から一品選んでいただき、そこ



私たちはもちろん気づいていました八の空いた船の上での馬鹿騒ぎなのだと

にけど誰に止めることができたのでしょ

こうして派手に着飾って忘れていたかっ

覚えていないとは言えないのですから

0

か

漕ぎ出

きな波に飲み込まれ

の底に沈んでいくものたちが必ずいるのです

Le Souper sin

乗るとき

「Monument du costume; physique et moral de la fin du dix-huitième siècle, ou tableaux de la vies (1789) より 京都服飾文化研究財団所蔵





光りきらめく砂上の城まで海馬車にそっと乗り込んだなら

/ - E



「驚異の

部屋」



帽子

素材:ウール、絹、ダチョウの羽根 原産地:アメリカ 製作年:1911年頃

「盛る」「映える」「エモい」。何事でも見た目を過剰に演出しがちな昨今だが、ファッションにおいて大げさに飾ることはいつの時代、どの場所でもよく起こっている。なかでも目につきやすい頭部の飾りは一度流行に火がつけば一気に燃え上がり、その大きさが競われることもしばしば。とりわけ(p.4~「一人一品」でも取り上げた)18世紀末や20世紀初頭の頭部の盛りっぷりといったら!この20世紀初頭の帽子も非常に大きいうえに、ダチョウの羽根をふんだんに飾り付けている。「もっと盛ってちょうだい!」というお客の声が聞こえてきそうなくらいに。(筒井)



Arnold Bachwitz監修『Grand Album de Chapeaux』 1910年頃刊行、京都服飾文化研究財団所蔵



産 街 道 を

各地を訪れます。 技法や素材、来歴を手がかりに、



石が

描

in

た女性の革手袋

日本海

夏目漱石の長編小説『彼岸過迄』にこんな一節がある。

かった。敬太郎は女の手を上げた時、この手袋が女の白い手頸をがしっくりくっついたなり、一筋の皺も一分の弛みも余していなそれが色の着いた蝋を薄く手の甲に流したと見えるほど、肉と革 ちりと合う山羊の革製ので、華奢な指をつつましやかに包んでいた。女は普通の日本の女性のように絹の手袋を穿めていなかった。き女は普通の日本のなどがあります。 三寸も深く隠しているのに気がついた。

どでよく売れた。そして、 先までフィットする立体的な仕立てだ。 袂から覗くこの手袋は上図のKCI収蔵品のような形態だったと思わ 手に馴染んだ革製手袋が、謎めいた「女」の佇まいを際立たせている。 のニット製と考えて相違ないだろう。当時、婦人の必需品として百貨店な が流行し始めていた。「女」はいわゆるハイカラな人だったのか…。 ずつ入り込み、着物にネックレスや洋靴を合わせるなど和洋折衷の装い 表された大正元年(1912年)は一般女性の装いに西洋の要素が少し だから、この「女」は舶来の品を嵌めていたのかもしれない。本作が発 れる。欧米で「キッド」と呼ばれる子山羊の薄く柔らかな革を用い、 に伸ばした地域がある。香川県の東部、 主人公、 一方、「普通の日本の女性」が嵌めるのは絹の手袋とあるが、これは絹 田川敬太郎が停車場で着物姿の「女」を見かけるシー ちょうどこの頃から日本で手袋の生産を飛躍的 東かがわ市だ。 山羊革は日本で入手し難い素材 ンだ。 指

今回の手がかりとなる収蔵品

1910~30年代、欧州製

京都服飾文化研究財団所蔵

柔らかいキッド (子山羊革) で 手の曲線に沿うよう立体的に作 られ、甲の三本線は革の伸び止 めと装飾を兼ねている。『彼岸 過迄』の「女」が嵌める手袋に 似た、手頸から三寸(約9cm) ほど長いミドル丈。

手袋

成田舞撮影

け落ちから始まっ た香川の手袋づく

この地で手袋づくりが盛んになったのだろう。 アルした館内を案内いただきながらその歴史を伺った。 の手袋関連会社が東かがわ市にあるという。 ですよ。」と大原さん。 寄りにある同館にて日本手袋工業組合の大原正志事務局長が出迎えて なだらかな山間部や田園地帯を通り抜け、讃岐白鳥駅に降り立った。最 ると聞き、 くれた。「東かがわ市は現在、手袋国内生産シェアがり割以上もあるん その東かがわ市の白鳥という地区に「香川のてぶくろ資料館」があ 訪ねてみることにした。 最盛期から随分減ったとはいえ、 高松駅から特急列車で東へ約40分 一体なぜ四国の北東部の 2019年にリニュー 「始まりは明治 いまも約60社

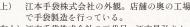
太平洋

東かがわ市









江本手袋株式会社の三代目、江本昌弘さん。

(左下)「佩」では手袋のほかにリストウォーマー やストールも展開している。







- (右上) 2019年にリニューアルした「香川のてぶくろ資料館」。 手袋づくりの道具や材料、詳細な歴史が分かるパネ ル等が展示されている。
- (右下) 日本手袋工業組合、事務局長の大原正志さん。
- 明治33年に辰吉が発明した「新一ミシン」。 伸縮性のある素材を縫い合わせることができる。

海外へ輸出されるまでになった。大正3年(1914年)には、第一次 先までしっかりと包み込む辰吉の手袋は評判を生み、国内だけでなく 会」を設立した辰吉は欧米各地を視察して手袋製造の技術を学び、 指部分のない手袋を作り販売していたという。「ところが舜礼は9歳と 時代で、両児舜礼という僧侶がきっかけです。明治19年、彼はこの地か に膨れ上がるほどだったという。 世界大戦中の物資供給難のせいもあり、それまでの輸出量が6000倍 に専用ミシンや測定器など手袋に関する特許を24件も取得している。 うと村長らと奔走したんです。」明治32年、 業の従事者を救済するため、大阪ではなく、この地で手袋産業を興そ 遺業を継ぐことになりましたが、当時、衰退し始めていた香川の製塩 地でメリヤス産業が興っていた。舜礼はそのメリヤス生地を縫い合わせ 殖産興業が推進された明治初期から東京や大阪をはじめとする日本各 でした。」メリヤスとは綿糸や絹糸を機械編みした伸縮性のある生地で まいの隣にあったメリヤス工場から生地を買い、始めたのが手袋製造 ら駆け落ち相手を伴って大阪へ出ました。そこで生計を立てるため、住 いう若さで急死してしまうんです。 そこで舜礼の従兄弟の棚次辰吉がたることで舜礼の従兄弟の棚次辰吉が 25歳で手袋製造所「積善商 指 後

第に中国製をはじめとする安価な商品に圧され、廃業する会社が相次 防止といった機能面だけでなく、 いますがやはり夏用は生産量が伸びません。今後は単に防寒や紫外線 ますね…。平成8年から売り出した夏用のUVカット手袋は売れては ぐようになった。「近年は暖冬の影響もあって手袋の需要が減少してい そのころは市内に250社ちかくも手袋関連会社があったというが、次 大原さんによると、手袋製造の最盛期は昭和45年ごろだったらしい と望んでいます。」 お洒落アイテムとして定着して欲し

づ h を守 3 43 世 代 9

戦

会社を白鳥に隣する引田に訪ねた。 継がれようとしている。 そんな大原さんや地域の人々の想いは、 近年、都市部で人気を集める手袋ブランド いま若い世代によって引き 0)

嵌めると手にしっとりと馴染む。そして25色の美しい色展開が目を楽 袋株式会社の三代目を継いだ江本昌弘さんが教えてくれた。 きましたが、最近は海外の安い生産ラインに圧されて…。 も複雑ですから。100年以上、地域の職人たちがその技術を守って という意味のこの地域の方言らしい。「佩」の手袋は上質なウール製で に自社ブランド「佩」を立ち上げた。「はく」とは「(手袋を)嵌める」 製品のこだわりがお客さんにダイレクトに伝わるようにと、2018年 から依頼を受けて手袋を製造してきたが、昌弘さんは作り手の想いや そんな引田で同社は昭和14年に創業した。 まも豪商の屋敷が並び、漁師町の風情をとどめた古い街並みが残る です。」ブランド名は「hac」とも書く。 人を守り育て、 (引田職人コミュニティ)」の略だ。 しませてくれる。「手袋製造って機械化できないんですよ。 「引田は昔から醤油醸造や漁業でも潤った街なんですよ。」 引田の手袋づくりの文化を継承したいと思っているん Thiketa artisan community これまでに様々なブランド なんとか職 縫製がとて 周辺にはい と、江本手

な 18 ッ ٤ 熟 練 の 技

基本的に一本の糸で編み上げる。 手袋は大別して、 編み手袋、 縫い手袋、革手袋がある。 それに対して縫い手袋と革手袋は、素 編み手袋は



指と指の間の狭い水かき部分に高低差を つけて縫う。手の厚みに馴染む秘訣だ。



生地の際ギリギリのところを勢いよく 縫っていく。



がら縫っています。」と笑みをこぼした。



完成したての手袋をつけるとピッタリとフィットし、 手を綺麗に見せてくれる。





「佩」のロゴは引田の刺繍職人の手で一つ一つ 丁寧に刺繍される。

由来が改めて心に響い

た。

のロゴの刺繍も一つ一つ手縫いなんですよ。」hacというブランド名の



生地の裁断を行う江本新一さん。1メートルちかくある大刀でスパッ と生地を裁断する。



手の形をした金型と圧裁断機を使って手袋の本体、親指部分を生地 から切り抜く。マチの部分はバンドナイフ裁断機で切り出していく。

裁断されたパー

ツが繁子さんの手に渡ると、

を打つことなく、

指で押さえる位置を変 またもやフリー

1

ンド

まるで舞踊を見て 瞬時に生地の目を

4

っているんですよ。」と昌弘さん。

4

はない。

「手の水かきの部分もフィットするように立体的に

確かに水かき部分は手の甲から手

次に薬指と中指、

中指と人差し指…と、

どんどん立体 繁子さん

0)

小指のマチと薬指のマ

チ



練の

に

ょ

る手づ

b

0

ね

同社店舗の奥に製造工場がある。

生地の裁断と仕上げを行う江本新

のキャ

リアをも

つ大

編目が歪みやす

新一さんが大

縫製を担う久米繁子さんは共に40年以上

袋)」の頁。京都服飾文化研究財団所蔵、成田舞撮影。

手に迷 用いた になっていく。近づいて見ると縫い代が2ミリもないが、 を縫い合わせ、 えながら環縫いミシンを勢いよく走らせる。 るかのようだ。 読んで正しい位置で裁断する無駄のない動作は、 業中に定規や目印が一切登場しないことに気づく。 がった。ここまでの新一さんの動作はとてもテンポよく進むのだが、作 きな生地を作業しやすい大きさに大刀で一気に裁つ。 テランだ。一連の作業の様子を見せてもらった。まず、 継がれている。 紀フランスの『百科全書』にも登場し、P.15の収蔵品や現在にも引き ツの原型は、辰吉が学んだ欧米にある。 での作業が始まった。マチ針 にバンドナイフ裁断機を使って小さくし、手の形の金型と圧裁断機を い伸縮性のあるニット生地だが、裁断線は驚くほど真つすぐだ。さら

「本裁ち」を行う。

あっという間に本体、

親指、

マチが出来上

ものひ 作業をしていますが、工程によっては近所の職人も関わっています。 ど様々な工程を経てようやく完成する。「ここでは自分も含めて3人で 複雑で根気のい いったのか らに向 か って高くなっている。嵌め心地 る仕事なのだ。その後も、 繁子さんによると一日に20双の製造が限度だという 裾や縫い代の始末、 のよさはこうい う細部に 整形な

袋に多くの目が向けられている。 刷新する人々の想いと技術があっ くらいに手によく馴染む。そこには先人の発明とそれを引き継ぎつ 冒頭 いた。今回の手袋は革製ではないけれども、 の「女」が嵌めた皺も弛みもない手袋から主人公は目が離せず た。 そしていま、 それ 彼らが生み出す手 に引けを取らな 2 4

に

取材文・筒井直子 写真·福嶋英城

取材にご協力頂いた企業 团 体 (敬称略)

- 電 〒 7 香川のてぶくろ資料館 0 6 8 9 7 1 9 2 1 7 2 0 http://www.tebukurokumiai.jp/museum/ 5 1 香川県東かがわ市湊 1810 3 2 0 8 (日本手袋工業組合)
- ホ 電 0 8 7 6 9 1 2 9 0 https://www.emoto-tebukuro.jp/ 3 香川 3165 2

江本手袋株式会社

ムページ

服をめぐる 15

地域で作られてきた多くはこの縫い手袋だ。そして使用され

立体構成のマチの取り方は18世

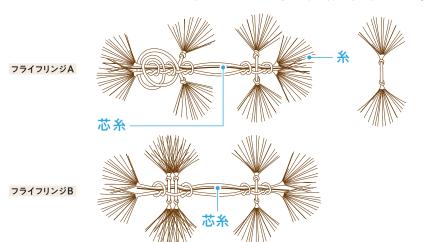
るパ

そしてこの製造には細かな熟練の技術と手間が欠かせ

のパーツを裁断し、縫製して立体的に仕上げる。同社をはじめ

(1) フライフリンジの製作

オリジナル同様の2種のフライフリンジを製作。 芯糸(コードを使用)に、違った結び方で糸を結びつける。



ドレス (ローブ・ア・ラ・フランセーズ) 1775年頃 フランス製

1775年頃 フランス製 京都服飾文化研究財団所蔵 広川泰士撮影



今日の補修室

TODAY'S RESTORATION ROOM

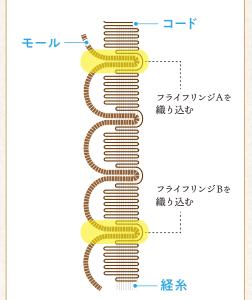
第 15 回

欠損部の製作補充③



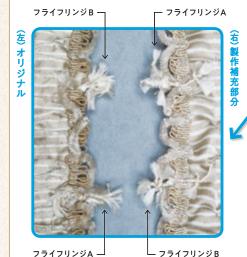
(2) ブレードを織る

簡易な織機を作り、経糸を張ったのち、 ①のフライフリンジ2種、コード、モール を緯糸としてブレードを織る。



(3) 完成!

前号で製作しておいたストライプ生地 をオリジナル同様3.5cm幅に折り、両端に②のブレードを縫い留める。 オリジナル同様ギャザーを寄せながら ドレスの欠損部に縫い留め、完成!



前号から、1775年頃に製作されたドレス(ローブ・ア・ラ・フランセーズ)の欠損部分の補充をご紹介しています。このドレスは、ローブの前中心部分に見事な装飾が施されています。しかし、左身頃の装飾部分がネックラインの少し下から30cm近く欠損していました。KCIで欠損部の製作補充を行う二つの条件(欠損によって衣服の機能やデザインが著しく損われていること、現存している部分をもとに欠損前の状態を推量できること)を満たしていたため、2009年に京都国立近代美術館で開催した「ラグジュアリー:ファッションの欲望」展に出展するにあたり、本品の欠損部を補充することになりました。

前号では、装飾部の土台となる生地を製作し、その生地を 縁取るブレードの素材としてコード*1、糸、モールの3種類を 準備しました。

今号は、いよいよ装飾部を完成させていきます。まずはブレードの製作からですが、ブレードには2種のフライフリンジ*2が織り込まれていました。左頁で製作の手順を紹介します! (伊藤ゆか)

*1コード…複数の糸をより合わせた細い紐
*2フライフリンジ… 結び玉や房で作った装飾

※前号はホームページでPDF版をご覧いただけます。 https://www.kci.or.jp/publication/pdf/pr/fukuwomeguru_014.pdf

服をめぐる 15

21

○ KCI活動紹介

「イベント報告」「ドレス・コード? ― 着る人たちのゲーム」展 関連イベント

ワークショップ

着せかえ紙人形を使って19世紀のファッション・デザイナーになろう!





熊本市現代美術館に巡回したKCIの「ドレス・コード? — 着る人たちのゲーム」展 会期中にワークショップを実施しました。これは19世紀のファッション誌の付録についていた着せかえ紙人形の型を使って、白紙に好きなドレスをデザインし、紙人形に着せてみるという内容です。参加者は19世紀のファッション・デザイナーになったつもりで色鉛筆や色紙などを使い、思い思いのドレスを制作して楽しみました。

イベント概要 日時 | 2020年2月2日(日) 13:00-16:00 場所 | 熊本市現代美術館 フリースペース 対象 | 3歳~大人 参加人数 | 50組

KCIギャラリー展示

「収蔵品紹介30:文字をまとう~服に表れた言葉~」



京都服飾文化研究財団が所蔵する服飾コレクションを展示する KCIギャラリー。現在、「文字をまとう〜服に表れた言葉〜」と題して、18世紀から今日までにみられる文字が表れた服飾品・書籍を約30点を展示。「メッセージ」「親密」「アート/マンガ」「ロゴ」「フレーズ」に分類し、それぞれに込められた意図をKCIの収蔵品をもとに探ります。ぜひご覧ください。

展示概要

会期 | 2020年1月27日(月) - 4月24日(金) ※土・日・祝は休館 開館時間 | 午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで) 入場料 | 無料

教育普及活動

2020年度博物館実習 受講生募集のお知らせ





KCIでは主に大学生・大学院生を対象とした博物館学芸員資格の取得に必要な「博物館実習」を開講します。収集・保存・研究・公開に関する基礎的レクチャーに加え、服飾品の取り扱いや、レブリカ衣装の着せ付け、展示プランの立案、展示空間での照明演習など、様々な実習を通じ、学芸員に必要な知識を身につけることを目的としています。

実習受講生募集概要

開講日程 | 2020年8月3日(月) - 8月7日(金) 募集人員 | 10名(仮申込書をもとに選考します) 実習場所 | 京都服飾文化研究財団 (〒600-8864 京都市下京区七条御所ノ内南町103) 受付締切日 | 2020年5月15日(金) 必着

※応募に必要な資格や応募方法など、詳細はKCIホームページをご確認ください。 https://www.kci.or.jp/information/2020/02/2018_30.html

23 服をめぐる 15

展覧会開催

「ドレス・コード?― 着る人たちのゲーム」展が 東京に巡回します

KCI収蔵品を中心に、アートや映画、マンガなどに表現されたファッション を視野に入れながら、現代社会における<ドレス・コード>とわたしたち の装いを見つめ直す「ドレス・コード? — 着る人たちのゲーム」展。 昨年より京都国立近代美術館、熊本市現代美術館で開催の同展が、今春、 東京オペラシティアートギャラリーに巡回します。どうぞご期待ください。

「ドレス・コード? — 着る人たちのゲーム」展

会場 東京オペラシティ アートギャラリー 〒163-1403 東京都新宿区西新宿 3-20-2

会期 2020年4月11日(土)~6月21日(日) 月曜休館。但し5月4日(月·祝)は開館。 ※詳細は展覧会特設サイトをご覧ください。https://www.kci.or.jp/dc/



◎東京オペラシティ アートギャラリー









「ドレス・コード?―着る人たちのゲーム」展会場風景 (熊本市現代美術館 2019-2020年) 山中慎太郎 (Qsyum!) 撮影

服をめぐる

「服をめぐる」衣服の研究現場より 第15号 2020年3月27日発行(年3回発行)

発行:公益財団法人 京都服飾文化研究財団 (KCI) 〒600-8864 京都府京都市下京区七条御所ノ内南町103

株式会社ワコール京都ビル内

電話:075-321-9221

ウェブサイト: https://www.kci.or.jp/

編集:筒井直子、福嶋英城、松坂雅子(京都服飾文化研究財団)

デザイン:坂田佐武郎、桶川真由子(Neki inc.)

写真:成田舞(Neki inc.)

筒井直子、福嶋英城(京都服飾文化研究財団)

編集後記

日本でオリンピック・バラリンピックが開催される今年、日本の衣文化にも世界から熱い眼差しが向けられています。現在、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館では、江戸時代の養を尽くした着物や着物からインスピレーションを得た現代の衣装等を取り上げた展覧会「Kimono: Kyoto to Catwalk」が開催中です。本展には東京国立博物館や共立女子大学博物館をはじめ、KCIからも収蔵品17点の貸出協力をしています。会期は6月21日(日)まで。欧州方面にお出かけの際はぜひチェックしてみてください!

(展覧会情報はこちら→ https://www.vam.ac.uk/)